

1. 6月植え「あきさかり」の収穫適期予想

2. 「おいでまい」「ヒノヒカリ」の出穂後の病害虫防除

令和4年9月
(中央地区)

東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

あきさかり 収穫期は「平年より1~3日程度早くなる見込み」です (8月30日時点)

(表) 田植時期ごとの収穫期の予想

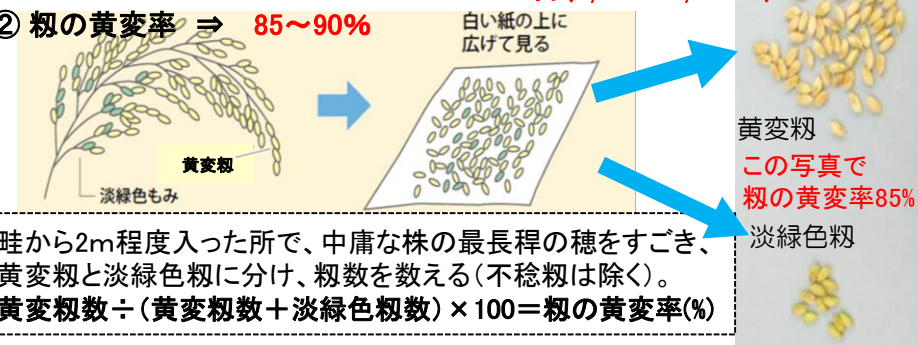
田植日	出穂期		収穫期(予想)	
	栽培しおり(平年)	本年産	栽培しおり(平年)	本年産
6月10日	8月13日	8月11~12日	9月18~21日	9月16~18日頃
6月15日	8月16日	8月14~15日	9月21~25日	9月20~22日頃
6月20日	8月19日	8月16~17日	9月24~28日	9月23~25日頃

- ・本年の6月10日以降に田植したあきさかりの出穂期は、平年より1~2日早くなっています。
- ・**収穫期**は、出穂から8月29日までは今年の気温、それ以降は過去5か年平均気温で算定したところ、上記の表のとおり、**平年より1~3日程度早くなる**ことが見込まれます。
- ・予想した収穫期が近づいたら、実際の稲の籾の黄変率や立毛の籾水分を確認して、適期収穫に努めましょう。

「あきさかり」の収穫適期を判定する3つのポイント

① 出穂期以降の日数(1日の平均気温の積算温度)
⇒ 39~41日 (1,000~1,050℃)

② 籾の黄変率 ⇒ 85~90%



畦から2m程度入った所で、中庸な株の最長稈の穂をすごき、黄変籾と淡緑色籾に分け、籾数を数える(不稔籾は除く)。
黄変籾数 ÷ (黄変籾数 + 淡緑色籾数) × 100 = 籾の黄変率(%)

③ 立毛の籾の水分(目安) ⇒ 25%程度(穀粒水分計で測定)

おいでまい・ヒノヒカリ

9月は、カメムシ類・ウンカ類の発生に注意！ 確認防除は難しいので、出穂後に次のいずれかで必ず防除をしましょう。

対象病害虫	防除時期	使用薬剤 散布量/10a	使用期限/回数
カメムシ類・ウンカ類	出穂7~10日後	スタークル粒剤 3kg	収穫7日前まで/3回以内
	出穂7~10日後	スタークル豆つぶ 250g	
	出穂10~14日後	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍・100ℓ	
カメムシ類・ウンカ類・コブノメイガ・イナゴ類	出穂10~14日後	キラップジョーカーフロアブル 1,000倍・150ℓ	収穫14日前まで/2回以内

ミナミアオカメムシ



ヒヨウウンカ 短翅型雌



要注意！

昨年、「イネカメムシ」が山口県、広島県等で多発生し、東讃管内でも局所的に発生しました。今年は、管内全域で確認されています。出穂時に籾の基部を吸汁されると、不稔籾となり、減収する恐れもありますので、防除を徹底しましょう。



イネカメムシ

病害虫防除や収穫の適期を予想するため、出穂期を把握しましょう

出穂期とは、1枚のほ場で、出穂すると思われる全茎数の40~50%の穂が出た時期です(右の写真)。



ご不明な点等がありましたら、東讃農業改良普及センター(TEL:0879-42-0190)まで、おたずねください。